

研修会

北海道町村議会議員研修会

7月5日

(第一部)

「ひとを動かし、まちを動かす」を演題で高野誠鮮氏を講師に迎え、7月5日に札幌コンベンションセンターで研修を行った。高野氏についてはローマ法王に米を食べさせた男として、また、ドラマ「ナポレオンの村」のスーパー公務員のモデルとして有名であり、講演はドラマモデルとなった戦略についてだった。

石川県羽咋市神子原地区は人口459人、市全体では2万3千人程で、神子原地区は高齢化率54%、過疎高齢化の対策・活性化に予算60万円を挑んだ。

思考パターンを変えていく。組織を大事にする人は組織しが残せない。何もしない人は失敗もしないなど動く人の考え方について、また、相談者



として聞いてはいけない人の例として、真っ先に失敗した時の事を言い出す人、経験もないのに知っているだけの人、論議だけの人を上げていた。農業生産収入が87万円の地区の米に①付加価値を付けて販売する。②ブランド化して自分達で販売する。③人を集め

るなどの努力を続ける。また、人、町、市、県、国の中で一番小さな単位は人であり、人を強いリーダーシップのもとやる気を持たせ動かし、そして、まちを動かすことが必要で、如何に人を奮い立たせるかだ。

北竜町でも米は同様に対応しているかと思うが、より今以上に、付加価値の上乗せを願う。基幹産業が農業であれば、基幹産業従事者が潤っていないければならない。さらに多くの産業が頑張れるような北竜町を願いたい。

(広報特別委員会 藤井)

(第二部)

「日本の行方」政局・政治展望」と題し、日本テレビ系「そこまで言って委員会」でパネラーとして活躍している東京新聞・中日新聞論説副主幹の長谷川幸洋氏が講演を行った。

今後の日本にとって中東・アジアが重要であり、その為

にも中国との関係がキーとなると述べ、世界的に以前までの「平和と繁栄」の共存主義から「自国縄張り論」が主流となり、政府はより一層日米同盟の強化を図って行くだろうとも述べた。また、憲法改正にも触れ「すべきだが出来ないだろう」と見解を述べ、「政治家・議員は出来る事を少しずつやるべき」と持論を展開した。

(広報特別委員会 北島)



北空知議員研修会

7月19日

7月19日沼田町に於いて、北空知議長連絡協議会主催の議員研修会が開催された。

講師に帝京大学経済学部地域経済学科教授、自治大学校客員教授の内貴滋氏による

「地方自治の母国に負けない日本の地方議会の役割」と題して講演を受けた。内貴氏は、「一村一品運動」、「ふるさと創生1億円事業」を企画、立案した立場からその実績等を紹介、さらにイギリスの地方自治と日本の地方自治を比較しながら、議会の役割、あり方について提案され、「最後にとどの自治体も国の各省に負けない気概を持って取り組む

時だと思う。」と締めくくられた。

(広報特別委員会 小松)



空知町村議会議員研修会

7月26日

7月26日新十津川町において開催された。講師は、北海道大学大学院工学研究院准教授、岸邦宏氏より「これから地域の公共交通の在り方を考

える」と題しての講演である。地方都市の実情は、路線バスの赤字や自家用車の利用、利便性を向上させても多くの住民は利用してくれない中で、

①路線バスの利用促進、②モビリティマネジメント(過度に自動車に頼る状態から公共交通等を使う方向へと自発的に促すこと)、③コミュニティバス(自治体・住民が主体となって運行する)、④デマンドバス(乗客の要望に応じて運行する。乗車定員11名以上)・乗合タクシー(乗車定員10名以下)などの取り組みが行われている。

住民の生活をどうしたいのか、地方都市の将来像をどう考えるか、公共交通とまちづくりの連携、まちづくりの目指すところは公共交通を通じた人々の交流であり、公共交通の整備がゴールではなく、地元の人たちと試行錯誤しながら考えることが大切である。交通とは、①人の移動、②ものの移動、③情報の移動であり、目的地があつて初めて移動し、公共交通は目的地ではない。ある地域では最近、NPOが運営するコミュニティカフェが単なる飲食の場ではなく、地域の人々の「たまり場」・「居場所」となり、人々の交流拠点(バスを待つ間の

交流の場)として、大切にされている。

こういった問題は、今後増々小さな町でも大きな問題(課題)となるだけに意義ある講演であった。

(広報特別委員会 佐光)



定例会を傍聴しませんか

第3回定例会は

9月14日～16日

の予定です。



議員コラム

6月に議長の代理で陸上自衛隊第2師団創立66周年、旭川駐屯地開設64周年の記念行事に出席した。観閲式に続いてヘリコプターからパラシュートによる空挺降下、観閲行進では勇壮な隊員、各種特殊車両、けたたましい音をたてて走行する戦車、ブルーインパルスによるアクロバット飛行とほとんどが初めて見る光景に改めて感動するとともに、大変頼もしく感じたところである。

陸上自衛隊に対する知識がほとんどなかったためこれを期に若干調べてみた。陸上自衛隊は日本を5つの方面隊に分け、北海道は北部方面隊として北の防人を担っている。その5方面隊を更に10師団に分け、第2（旭川）第7（千歳）師団が北海道に配置され、さらに駐屯地という形で道内各所に配置されている。国内

での度重なる災害派遣、世界からは各国地域の紛争解決の為に日本の役割が期待されている中で、命懸けで崇高な使命にご苦労されている自衛隊員に心から敬意を表したい。

（小松 正美）

